

拝啓 時下いよいよご清祥の趣 大慶に存じます。

さて葬送文化研究会では約一六年における活動の中で、今般『日本葬送文化学会』としての枠組みを創設することになりました。全国各地における葬送関係者の方々や学識経験者の皆様をはじめ、多くのご関係各位のご協力ご賛同を得てかねてより準備して参りましたが、ようやく実現の機を得てお知らせ、ご案内できるようになりました。これまでご縁をいただき当会の定例会などでご講演を賜りました先生方や会員からの要望などをあわせまして、創設のご報告と今後のご親交をせつにお願い出来ればと言う主旨のもとのご案内をさせていただきました。つきましては左記により創設記念の講演と懇親の小宴を催しますので、時節柄ご多用とは存じますが、なにとぞお繰り合わせの上ご来駕賜りたくご案内申し上げます。

敬具

記

一、日時 平成一三年十月二六日

午後六時より記念基調講演  
七時より懇親パーティー

一、場所 九段会館 孔雀の間  
東京都千代田区九段南一・六・五  
電話 ○三(三二六一)五五二一

追って同封はがきにてご都合のほどを十月二十日までにご連絡いただければ幸いに存じます。

平成一三年九月吉日

葬送文化研究会改め

日本葬送文化学会

同

会長 天野 勲  
常任理事一同

殿

# 日本葬送文化学会 発会式次第

- 1: 挨拶 旧葬送文化研究会 会長 天野 勲  
1: 学会発足にあたり・・・経緯説明と発足宣言 同 顧問 八木澤 壮一  
1: 基調講演 講演者ご紹介役 同 代表幹事 浅香 勝輔

講演 『哲学者たちのみた死と葬送』

講師 田中久文先生

講師略歴 1952年埼玉県生まれ。埼玉県立熊谷高校を経て東京大学文学部倫理学科卒業、同大学院博士課程修了。現在、日本大学理工学部教授。文学博士。専門は倫理学・日本思想史・日本文化論。日本の近代哲学を伝統思想との関連のなかで読み解き、現代の倫理的課題に生かそうとされておられます。  
著書に『九鬼周造—偶然と自然』（ペリカン社・第一回中村元賞受賞）、『甦る和辻哲郎』（ナカニシヤ出版・編著）、『日本の「哲学」を読み解く』（ちくま新書）等

1: 懇親パーティ準備 少憩 / 記念撮影

1: 懇親パーティ

祝辞 全国霊柩自動車協会 会長代理 事務局長 柴山喜郎様

乾杯 全日本葬祭業協同組合連合会 相談役 横山潔様

ご会食・ご歓談

1: 中締め挨拶

1: 閉会



平成13年10月26日  
於：九段会館

# 消費者の視点で「お葬式」学会

10/23 日経

「縁起でもない」と正面から語られることが少なかったお葬式の在り方を、消費者の視点から研究しようという「日本葬送文化学会」が二十六日、都内で発足する。

## 葬儀会社や宗教専門家

「縁起でもない」と正面から語られることが少なかったお葬式の在り方を、消費者の視点から研究しようという「日本葬送文化学会」が二十六日、都内で発足する。葬儀に関する研究はこれまで民俗学や宗教学の一部として触れられてきた程度で、利用者の意識が考慮されることはほとんどなかった。「日程が葬儀会社の言いなりで、ゆっくりお別れする時間がなかった」「費用が高すぎる」などトラブルになることも多く、最近では業者に頼らない自分流のお葬式をする人も増えている。このため葬儀会社や宗教専門家など約七十人が「庶民の日常的な行いである葬儀をより良いものになりたい」（二村祐輔事務局長）と研究に乗り出すことにした。学会は一般からの参加も受け入れ、国内の宗教系大学に「葬送儀礼学科」の設置を働き掛けるなどの活動をする予定。

10/23 産経

# お葬式を構えずに

26日に学会発足

「縁起でもない」と正面からはほとんどなかったお葬式の在り方を、消費者の視点から研究しようという「日本葬送文化学会」が二十六日、都内で発足する。葬儀に関する研究はこれまで民俗学や宗教学の一部として触れられてきた程度で、利用者の意識が考慮されること

## 消費者の視点から研究

門家など約七十人が「庶民の日常的な行いである葬儀をより良いものになりたい」（二村祐輔事務局長）と本格的な研究に乗り出すことにした。学会は一般からの参加も受け入れ、国内の宗教系大学に「葬送儀礼学科」の設置を働き掛けるなどの活動をする予定。



東京世帯 黒川弥草丸 語る 遺事